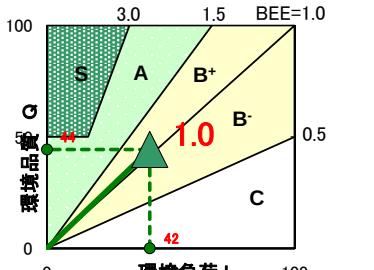
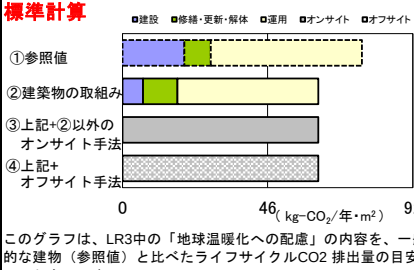
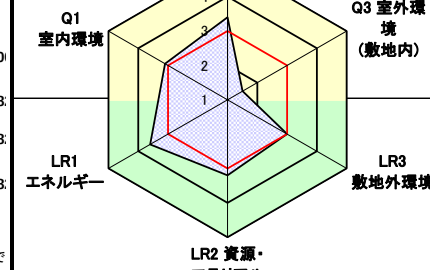


CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレザンスレイズ 桜山町三丁目(54-3)	階数	地上15F
建設地	名古屋市昭和区桜山町三丁目54番3、54番4、54番5、55番1、55番2	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	154 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年3月30日
敷地面積	595 m ²	作成者	
建築面積	251 m ²	確認日	2024年3月30日
延床面積	2,721 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 ★★★★★★☆☆☆☆ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★ 		

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

項目	スコア
音環境	3.3
温熱環境	3.1
光・視環境	2.8
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

項目	スコア
機能性	4.0
耐用性・信頼性	3.2
対応性・更新性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.5

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	1.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

項目	スコア
建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	3.9
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

項目	スコア
水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.2
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 防犯面、環境面に配慮したつくりとなっている。		
その他 なし。		
Q1 室内環境 F☆☆☆☆を使用し、汚染物質発生に配慮している。	Q2 サービス性能 部品部材の耐年数が十分な精度が確保されている。	Q3 室外環境(敷地内) 防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級 4 以上としている。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の使用に心がけている。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪・駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンス レイズ 桜山町三丁目(54-3)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.0
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 1.0



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。